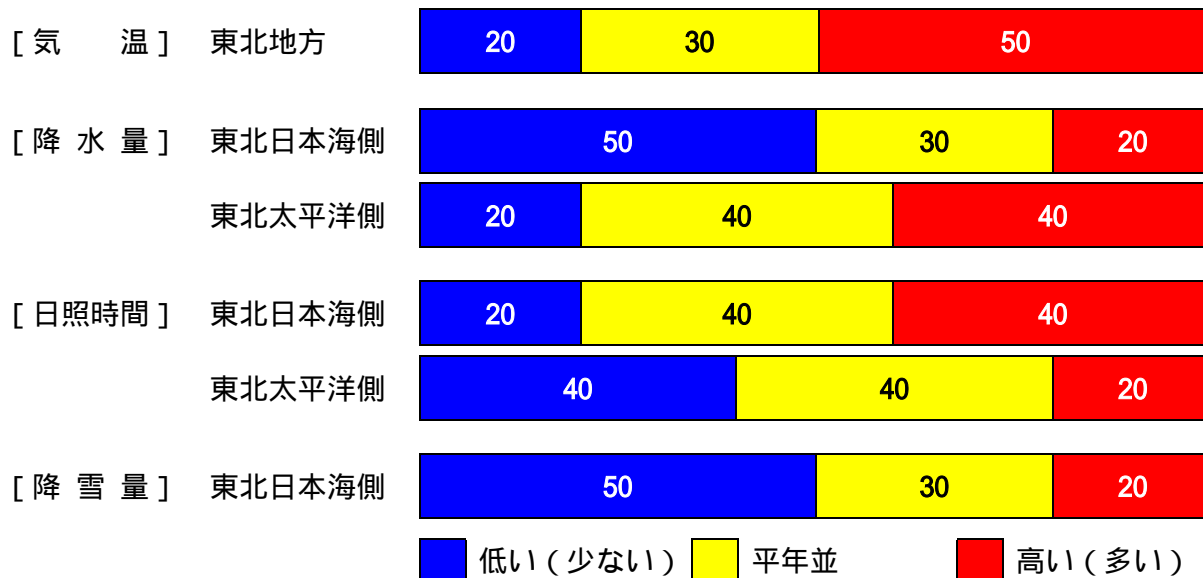


東北地方の 1 か月予報解説資料（予報期間：1 月 26 日～2 月 25 日）

平成 14 年 1 月 25 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30％です。「低い」の可能性は 20％と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30％です。「多い」の可能性は 20％と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の可能性は 20％と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の可能性は 20％と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「多い」の可能性は 20％と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30％です。「多い」の可能性は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

(最も高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

なお、期間の前半は平年より気温の高い日が多いでしょう。

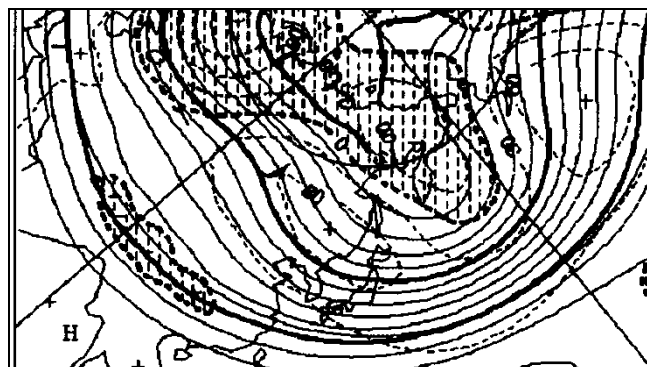
平均気温は高いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約6日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 週目……………
(1月26日～2月1日) | 27日は発達した低気圧の影響で天気が崩れるでしょう。その後は冬型の気圧配置となるため、東北日本海側では雪の降る所が多く、東北太平洋側では概ね晴れる見込みです。
平均気温は高いでしょう。
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約5日 |
| 2 週目……………
(2月2日～2月8日) | 天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
平均気温は高いでしょう。
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約5日 |
| 3～4 週目……………
(2月9日～2月22日) | 天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
平均気温は平年並でしょう。
平年の晴れ日数：東北日本海側約3日、東北太平洋側約9日 |

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

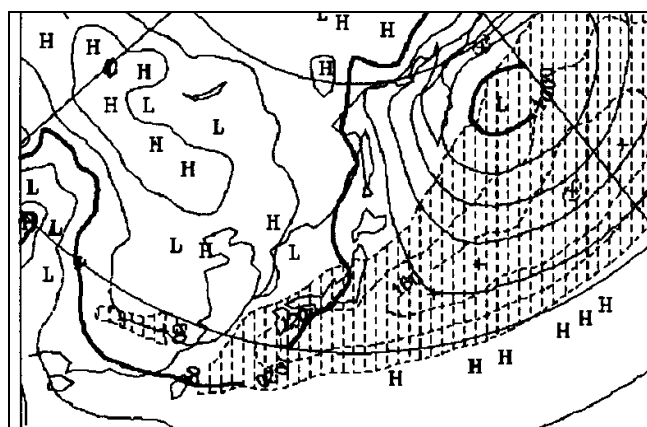


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、アラスカの南とバイカル湖から北日本に正偏差の中心があり、極東では高緯度を除いて広く正偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期変化で、強い寒気は南下しにくい。

週別（図略）でも、月平均と同様。各週共に日本付近は正偏差に覆われ、特に 2 週目は日本付近が正偏差の中心となる。



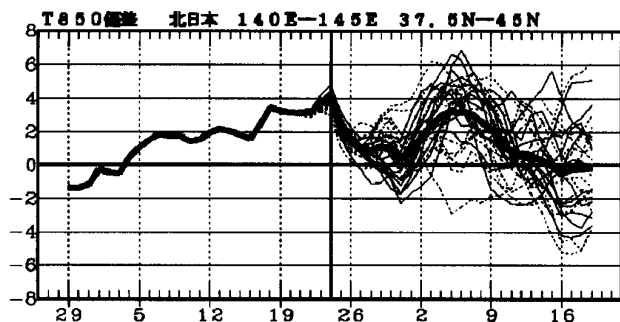
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸に高気圧、カムチャッカ半島の東には低気圧があり、日本付近は冬型の気圧配置となっている。しかし、等圧線の間隔は広く、冬型の気圧配置は弱い。

まとまった降水域は、日本の南岸沿いから東海上に延びる。

週別（図略）でも、月平均と同様の気圧配置となっているが、特に 2 週目は日本付近高気圧に覆われる。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

(縦軸：気温平年差() 横軸：日付)

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

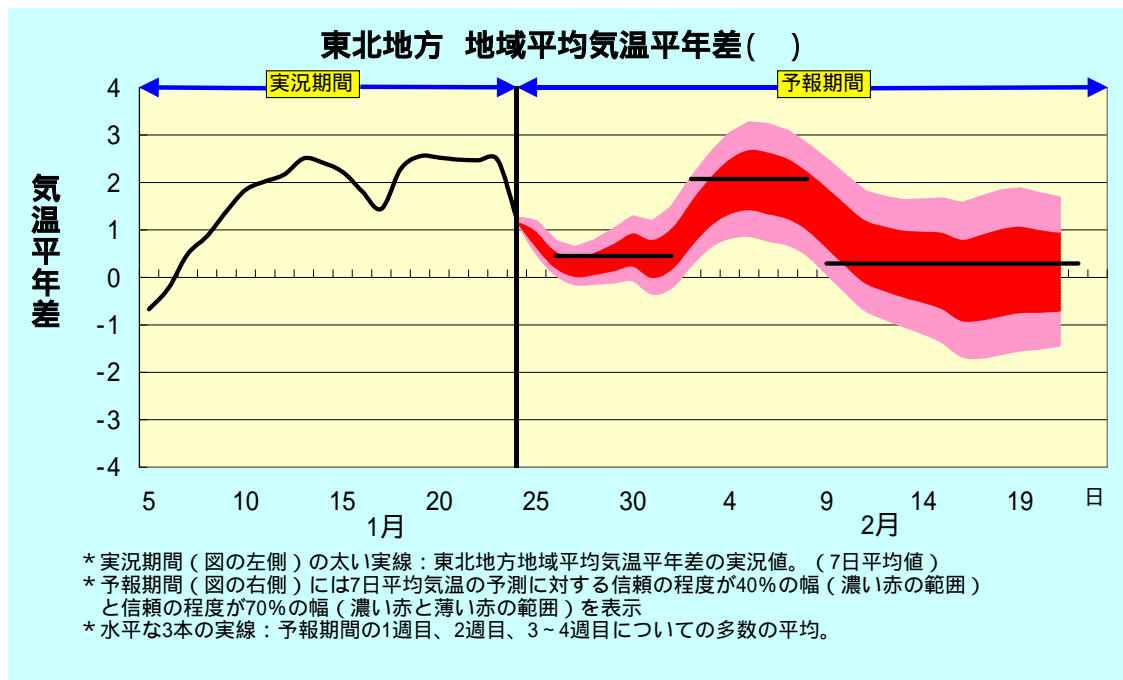
・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1 週目は平年並～高めで、2 週目に平年を大きく上回る。その後下降して 3～4 週目は概ね平年並で推移する。

2 週目に低温となるメンバーも 1 つあるが、3 週目位までは比較的バラツキは少ない。

3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目「平年並」、2週目「高い」、3～4週目「平年並」を予測している。予報は、他の予想資料から1週目を「高い」に修正する。2週目以降は予測どおり。なお、予報の信頼度は大きい。

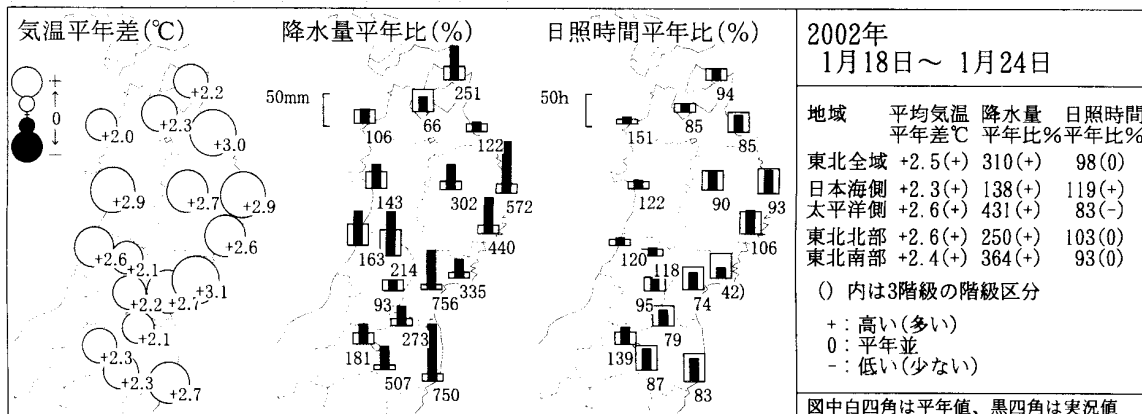


4．最近1週間（1月18日～1月24日）の天候の経過

この期間、19～20日にかけては移動性高気圧に覆われ、晴れるところが多かった。21～22日にかけては低気圧が発達しながら日本付近を通過したため、東北太平洋側を中心に記録的な大雨や暴風となり、大荒れの天気となった。その後は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪となるところが多く、東北太平洋側では曇りや晴れとなった。

21日の各地の日降水量は、宮古で72.5mm、大船渡で52.5mm、仙台で60.5mm（1月として第2位）、小名浜で88.0mm（1月として第1位）などだった。

平均気温は、東北地方で平年差+2.5 と高かった。降水量は、東北地方で平年比310%と多かった。日照時間は、東北日本海側で平年比119%と多く、東北太平洋側で平年比83%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）